

進むべき「道」を究めろ!

●今「熱く生きる」を読んでいます!

先週9日の読売新聞に順天堂大学病院副院長の天野篤さんの記事が「顔」欄に掲載されていました。

* *

◆若手医師の指導役になった天皇陛下の執刀医 天野篤さん(58)

「医師は生活のために易(やす)きに向かうべからず」「医師は患者に対して、不庵よりも希望を持たせることを優先させる」……。8項目の「医師道」を作り、自らの規範としている。昨年12月、順天堂大学病院副院長に就任し、免許を取得したばかりの若手医師の「指導役」を任された。「努力を積み重ね、それぞれの『医師道』を追求してほしい」と、名心臓外科医は訴える。

34歳の時、心臓病を患う父親が手術後に亡くなった。「多くの経験と高い技量があれば、自分が執刀して助けてあげられたのではないか」。以来、手術経験を積み重ね、2002年、同大心臓血管外科教授に就任した。実績を買われて12年2月には、天皇陛下の心臓手術を執刀した。

年間500例の手術を行う一方、魅力ある研修内容作りに頭を悩ます。激務の外科医を嫌う医師が増えている現状に、「手術を受けた患者が笑顔で退院していく時の充実感だけで苦労は報われ、大切な経験となる。医師としての喜びを実感できる研修を提供したい」。趣味は、元気になった患者と回るゴルフだ。(医療部 坂上博)【読売新聞「顔」2月9日】

* *



そんな天野先生が『熱く生きる』(セブン&アイ出版)という本を出されました。

* *

【内容紹介】天皇陛下の執刀医、魂の生き方書! 人生、仕事、医療……。この本は「世の中への檄(げき)」だー。

●自分が受けた恩恵は、世の中に返せ。

- 難関校を出た秀才だけが医師になってよいのか
- ゲームばかりして、と叱る親は才能の芽を摘んでいる。
- すべての仕事は世の中のために役だってこそ価値がある。
- 仕事に飽きるのは中途半端に妥協しているからだ。
- 天皇陛下の手術より、さらに進んだ手術を誰もが受けられる。

- 第1章 思いを磨け——世のため人のために生きる
- 第2章 人の逆を行け——偏差値50の闘い方
- 第3章 覚悟を持って——ゆずれない一線を決める
- 第4章 先を読み——次の時代を見る
- 第5章 問いかけろ——疑問を持ち、行動を見直せ
- 第6章 目標は高く——進むべき「道」を究めろ

*

【出版社からのコメント】日大医学部を卒業後、どこの医局にも属さず、ひたすら腕を磨いてきた心臓外科医が、2012年2月、天皇陛下の心臓バイパス手術を執刀した。偏差値50もなかった三浪の時代を経て、あえて厳しい道を歩んだプロフェッショナルの「思いと情熱の磨き方」「人生の切り開き方」。

* *

だそうで、2月4日に発売されたそうです。

先日の浦高同窓会常任理事会で、天野先生から「同窓会奨学財団」に対して多額の寄付をいただいたことや、この本の印税を寄付していただけたことのお話がありました。素晴らしいことですね。私も早速購入させていただくとともに、地域同窓会や同期の皆さんにも宣伝させていただいています。

* *

さて、去年の歌会始めのことですが、皇后さまが、「天地(あめつち)の きざし来れる ものありて 君が春野に 立たす日近し」

という御歌(みうた)を披露されました。

皇后さまは、天皇陛下が平成24年2月に冠動脈バイパス手術を受けられた時に、天野先生から言われた「春になればきっとご回復なさいます」という言葉を信じて、春の訪れをお待ちになっていたようです。そして、ある日かすかに春の気配が感じられた時に、「陛下がお元気に春の野にお立ちになる日もきっと近い」と、心弾ませて詠まれた歌だそうです。

この歌の中には、

「天つちの きざしきたれる ものありて

きみがはる野に たたすひちかし」

とあり、天野先生は「大変光栄で、歌の中に『天、野、あ、つ、し』と入っていることに気付き、偶然かもしれないが大変感銘を受けました」と、後日語られています。[参照:読売新聞2013年2月18日]

さらに記事からは、天皇陛下の公務に対する大きな情熱に「すごい方だ、この方のために役立つなら一生懸命やろうと」いう傾倒する心、皇后さまが手術前の説明で2時間、さまざまな疑問を投げかけられ全てに答えられたことで、リラックスできたと言われる天野先生のモチベーションの高さが手術を成功させたのだらうと感じました。まもなく春が…。